

ふじやまだより

第33号

発行 2005年

9月15日

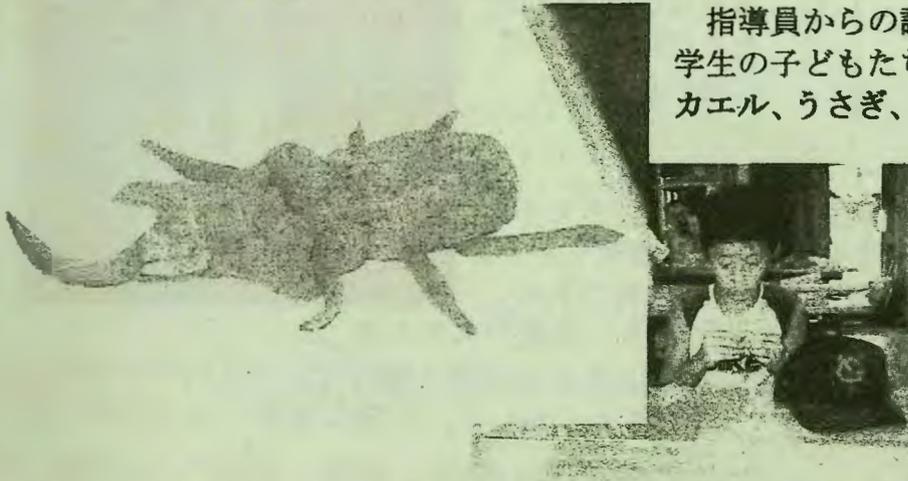
本郷
ふじやま公園
運営委員会

ワー、すてき！

粘土で作るふじやま公園の動物たち

こども工作の日

夏真っ盛りの8月21日に、小学生を対象にした8回目の「子ども工作の日」が午前、午後と2回にわけて行われました。うだるような暑さの中13名の小学生と父母を合わせた20名余りの人たちがふじやま公園の工作棟に集まりました。



指導員からの説明をひとつお聞きすると、小学生の子どもたちはそれぞれ粘土で作成したカエル、うさぎ、りす、などの見本を見たり、

何をつくろうかと考えたりして作り始めました。

なかには難しいものに取り組んで、できないでいる子どももいました。やはり高学年生は、じっくり取り組み、納得のいくまで挑戦していました。その姿を見て、お父さんやお母さん

も満足した様子です。また何を作ろうかと10分ほども悩んでいた5年生の男の子は、指導員から「虫でもよいのよ」と言葉をかけられると、手際よく見事なカブト虫(写真)を作り上げて、みんなから拍手を浴びていました。

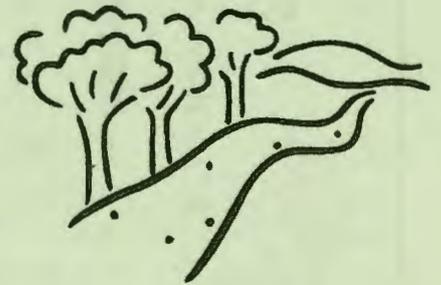
短い時間で子どもたちは思い思いの作品を作り、楽しい夏休みの一日を過ごしました。

「自然の絵の具で絵を描こう！」第2回

「土などを採取し絵を描くことによって、季節感を楽しみ、同じ地域に住む人たちとのふれあいを持ち、身近なところから環境を考える」という催し〔(財)神奈川県国際交流協会主催〕の第2回目が8月20日に開かれました。

第1回に続いて今回もふじやま公園はこれに協力して、ゴールのふじやま公園では、ビニールシートを広げて採取した土をニカワで溶いて大きな画用紙などに思い思いの絵を描きました。

描いた絵の展覧会が、あーすぷらざ(5F渡り廊下)、いたち川、ふじやま公園で11月1日～11月13日まで開かれる予定です。お問い合わせは神奈川県国際交流協会(045-896-2899)横山さんへ。



秋の七草「クズ(葛)」

—花暦その9—

本郷ふじやま公園では、秋の七草のうち、このクズ(葛)とススキ(尾花)だけが野草として自生しており、他の5種(キキョウ、オミナエシ、フジバカマ、カワラナデシコ、ハギ)は花壇等で園芸種が栽培されています。



クズは、ツル性植物で、他の物体にからみつきながら10m以上も伸び、高木にもよじ登り、大きな葉で覆いつくします。空き地、崖、林縁など、いたるところにはびこります。マメ科の植物で、葉は3枚の小葉を持つ複葉で、互い違いにつき、長い柄があります。

花は葉脇から総状花序を立て、紅紫色の蝶形花を密につけます。ブドウに似た甘い香りがして、蜂や蝶がよく吸蜜しています。花期は7~10月でかなり長く、秋の七草の中では、最も長くみられません。

根は、長大で多量の良質なデンプンを含み、くず粉を作るのに利用されてきました(現在ではジャガイモデンプンが主)。また、薬用として、皮を除いた根を発汗や解熱緩和薬に用いてきました(葛根湯)。 (宗森英夫)

古民家Q&A 第3回 土間

Q: 古民家の土間はかなり広いですが何に使われましたか?



A: 農家の場合、土間は建坪の半分近く占めることもあるほど広く色々な目的に使われました。土間は玄関であり、通路であり、中庭であり、客間であり、作業場であり、収穫物の取扱い場所であり、道具置き場であり、部屋でもありました。

土間は日本の古来の民家に見られる形式で土足のまま使う場所で、外と内の中間的な役割を果たしました。土間は建物内で土の部分のことで土(赤土・砂利)、石灰、^{ニガリ}苦塩の三つを練ったものを叩き固めたことから^{タタキ}三和土とも云います。三和土は土で汚れますが一方では非常に清浄感も漂い、暖かいような冷たいような、あるいは硬いような軟らかいような独特の日本的な空間を作っています。

通常の出入口である大戸を入るとすぐに土間になり、土間には柱が無い広い空間が広がり、地域によってはニワとも呼ばれ、普通の農家では藁打ち石、白などが置かれました。土間の奥にはカマドが設けられ、流し台が置かれていました。

旧小岩井家の土間は間口3.5間、奥行き5.8間、広さは約20坪あり、建坪の三分の一弱あります(座敷部分を除くと二分の一弱)。昭和初期の状況は大戸を入れて右側には餅つき道具、石臼が置いてあり、左側にはこもかぶり(写真上)の酒樽が置いてあったとのことです。 (田代眞治)



つれづれのうた

竹藪の空ゆく月も十四日

月出てもでなくても今宵月の客

名月を遮る庇面白し

松本たかし

福井圭児

高浜虚子

イベント案内

ふじやま農園収穫祭

11月5日(土):11時~13時 受付:10時30分より(雨天の場合翌6日に順延)
今年もふじやま農園の収穫祭の時期になりました。食欲の秋、おいしい秋です。

農芸部会 遠山 隆

農園は、開園の日に地元の小中学生によって植樹されたクヌギ林と共に早や3年、年ごとに立派になってきました。さつま芋、里芋、ネギ、…は夏の日照りにもめげずよく育ち豊かな実りを予感させています。農芸部会ではご来園の皆さまに喜んでいただけるようにと石焼き芋やふじやま鍋、カマドづくりにも色々工夫をこらしています。

☆収穫体験(さつま芋と里芋) 小学生先着30名

☆石焼き芋やふじやま鍋を味わう 各100円 先着順に各150名

☆収穫物のお楽しみ抽選会 抽選券は一家族1枚

☆子どもさん対象のあそび

☆花壇で採取した花の種を希望の方に無料頒布

どうぞ皆さまには原風景を思い起こすふじやま公園にお誘い合わせてご来園されますよう、そして収穫の喜びを共に分かち合いましょ



本郷ふじやま公園

文化の日記念行事

古文書解読講座

“鍛冶ヶ谷村の歴史を讀む”を開催

<第三回> 日時:11月3日13時30分から15時30分

場所:古民家

この講座は小岩井家に残された多くの古文書の中からこの地域の歴史を讀み解こうとするものです。

今回の古文書の解読は横浜市立歴史博物館学芸員の斉藤司先生のご指導のもとに古民家歴史部会の有志が5点のものについて行いました。その中から今回の講座では寛保3年(1743年)の「相模国鎌倉郡鍛冶ヶ谷村村指出帳」を斉藤先生に解読・解説していただきます。この文書は当時の鍛冶ヶ谷村の状況を詳細に記述しており貴重なものです。

なお、文化の日記念行事として講座の他に関連の資料などを内倉に展示する予定です。

希望者は4ページの応募要領参照。

炭焼きのシーズンがやってきた

炭焼きが秋から冬にかけて行われる理由の一つ目は、春から夏の季節は樹木の成長期で水分を盛んに吸い上げているため、そのまま焼くと非常に時間がかかるからです。落葉樹の場合、葉が落ちてからの方が切り出しやすいということもあります。二つ目は、炭焼き作業は大変熱いため、暑い夏場は避けて、涼しいまたは、寒い季節の方が向いているからです。三つ目は、昔の農村では農閑期の冬場に、現金収入の仕事として、炭焼きが行われていたのです。

本郷ふじやま公園では、11月に「炭焼き体験教室」を実施します。

希望者は4ページの応募要領参照。



